

市民のひろば



☎ 857-8585 (住所不要) 市役所秘書課広報係 (☎ 1111)
Eメール hishok@city.sasebo.nagasaki.jp



佐世保独楽に
まつわる思い出
(花高3丁目・
森永 紀美子さん)

1月号の「市民のひろば」に、福岡在住の方からのお便りがありました。佐世保の歴史散歩のことが書いてあり、うれしく思いました。

私も毎月歴史散歩を読ませていただき、新しく知識を得たように感じています。

2月号の独楽のことは、読んでいてなぜか、自分たちの幼かったころを思い出しました。3人の弟たちは、独楽の先に付ける「剣」を、かじ屋さんに作ってもらったりして、オリジナルの独楽を持ち、自慢し合っていました。

佐世保の伝統を大切にしていきたい
(黒島町・和泉 久美子さん)

私は佐世保独楽が大好きです。投げ独楽はできませんが、普通に回すことができます。

近所の子どもたちも、少しずつ独楽で遊ぶようになってきましたが、まだまだ少ないようです。伝統を大切にしていきたいですね。

(広報係から)

2月号の歴史散歩で掲載した「佐世保独楽」については、昔を懐かしむお便りがたくさん寄せられました。

最近はお子さん向けのイベントで、独楽回しやたこ揚げ、竹馬など、昔遊びのコーナーが人気を集めているようです。これらの伝統を絶やさないう、次の世代に伝えていきたいですね。



「アルカス SASEBO」の名前の由来は？

「アルカス」とは、ギリシャ神話の母と子の物語に登場する子どもの名前です。

ある日、狩りに出掛けたアルカスは、のろいによって熊の姿に変えられた母親カリストを、母とも知らずに仕留めようとして見

兼ねたギリシャの神々の王・ゼウスが、アルカスもまた、熊の姿に変え、母はおおぐま座に、子どもはこぐま座になったとされています。

アルカス SASEBO は、大・中・イベントホールを備えた「シーサイドホール・アルカスさせぼ」と、市男女共同参画推進センター・スピカなどを備えた「佐世保地域交流センター」で構成されています。そこで、これら2つの施設をおおぐま座とこぐま座に見立てて、住民を明るく照らす、文化創造活動と地域活性化の拠点となつてほしい、という願いを込めて名付けられました。



はがきに答えと住所、氏名、年齢、電話番号、広報紙へのご意見を書いて、3月23日必着でどうぞ。

問題 3月16日開催の「タウンウォッチング」では、焼き物の里・山を歩き、まちづくりを考えます。



問題 佐世保市は2月3日、町との法定合併協議会を設置し、合併に向けた本格的な協議を始めました。

問題 戸籍や住民票には、謄本と本の2種類があります。

前回の答えは、エコ 15 パール でした。たくさんのご応募ありがとうございました。

全問正解者の中から抽選で、5人に図書券を差し上げます。紙面の都合上、発表は発送をもって代えさせていただきます。

歴史散歩

げん き あん
元亀庵跡

(野中町)

452

野中町436に住む久田正次さん(67)宅の前に「あみだ様」のお堂があります。樺の巨木がそびえていてよく目立ちます。脇をたにご川が流れ、ほとりに自然石の碑が建っていて、久田さんら地元の古い人たちは「元亀さま」と呼んでいます。

明治40(1907)年生まれのお祖母で、90歳で亡くなられたヒサさんによると、あみだ堂一帯は小山になっていて、昔「元亀庵」と呼ぶ庵寺があったということです。庵とは、大野の大智庵、佐世保浦の泉集庵など、僧一人が営む仏教施設です。

「元亀庵」の呼称から想起されることは、元亀2(1571)年暮れから翌年正月にかけて、相浦・飯



盛城の松浦親と有田・唐船城の有馬左高(盛)が一戦を交えた相当原合戦です。戦国時代の政略結婚のもつれが生んだ身内の争いでしたが、平戸から親の兄・鎮信が、現在の原分町まで押し寄せてきました。

平戸の古書「印山記」には「親子兄弟怨敵となる修羅の巻ぞあさましけれ」と表現し、子が親を矢で射殺し、その子も自殺してしまった悲劇などを記しています。

野中町の元亀庵は、松浦鎮信軍の陣に近く、恐らく合戦の犠牲者を供養するため、相浦川を見はるかすこの地に庵を結んだのでしょう。

元亀庵ゆかりの碑は、もともとは市道沿いにありました。(筒井隆義)

